

RSウイルス感染症

大きな感染症を知る ◆42◆

▽RSウイルス感染症の流行
乳幼児に肺炎などを引き起こすRSウイルス感染症の患者が近年増加する傾向にあり、

日(多くは4~6日)間の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。

▽重症化のリスク
多くは軽症で済みますが、場合によっては

国立感染症研究所によると、8月28日から9月3日までの1週間

に全国の約3千の医療機関から報告された患者数は1万213人と、過去最大の流行となっており、奈良県でも同様に流行しており、患者発生の状況をグラフに示しました。

▽症状
通常、RSウイルスに感染すると、2~8

重篤化する場合があります。

再感染はよくみられ、高まっています。

入院となった事例が

や物品(ドアノブ、手

は、咳(せき)がひどくなる、呼吸時にゼイゼイ、ヒューヒューという音「喘鳴」せんめりが出る、呼吸困難となるなどの症状が出現します。その他の重篤な合併症として注意すべきものには、無呼吸発作、急性脳症等があります。

は少なく、多くは軽い症状です。重症化の危険性が最も心配されるのは、生まれて初めてRSウイルスに感染する時と考えられています。初めて感染した乳幼児の約7割は、鼻汁などの上気道炎症状のみで数日のうちに軽快します。

高齢者においても、急性の(しばしば重症)の細気管支炎や肺炎を起す原因として、重要になりつつあります。特に、長期療養施設内での集団感染が問題となります。

▽RSウイルスは、特に家庭内でよく感染することが知られていますが、感染した年長児や大人が、軽症であるためRSウイルスに感染

▽RSウイルスは、1月ごろから報告数の増加傾向がみられるなど、流行の開始時期が早くなっています。

▽RSウイルスは、インフルエンザウイルスと同様に、エンペロウイルスと呼ばれる脂質の膜で覆われた構造をしているため、アルコール系消毒剤や逆性石けんといった一般的な消毒剤が有効です。

初感染で重症化にも

マスクや消毒で予防

すが、場合によっては細気管支炎、肺炎へと症状が進展することがあります。気管は、肺に向かつて何度か分岐し、だんだん細くなっています。気管が肺の組織に入る手前の、最も細くなっている部分が細気管支で、ここに炎症が生じる病態を細気管支炎と呼びま

RSウイルスは、生誕にわたって感染を繰り返すと言われています。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼすべての児(100%)がRSウイルスに1度は感染するとされています。年長児や成人の再感染はよくみられ、高まっています。

低出生体重児や、心臓や肺に基礎疾患がある場合には、神経や筋肉の疾患があったり、免疫不全が存在する場合には、重症化のリスクが高まっています。

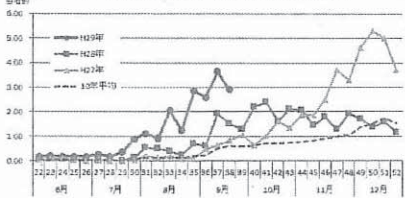
▽感染経路
RSウイルスに感染している人が、咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びて吸い込む飛沫(ひまつ)感染や、

接触感染や、ウイルスがついている手指や物品(ドアノブ、手

したと気づかず、家庭内に持ち込んで、0歳児や1歳児にうつすことが心配されます。

▽近年の流行の傾向
RSウイルス感染症は、例年冬期に報告数のピークが見られ、夏期は報告数が少ない状態が続いていました。RSウイルスは、7月ごろから報告数の増加傾向がみられるなど、流行の開始時期が早くなっています。

奈良県におけるRSウイルス感染症の発生状況



(奈良県感染症発生動向調査から)

▽RSウイルスは、1歳児に接することで(県感染症情報センター) 2木曜日掲載

県感染症情報センター